

雑記抄

いざ、発進!!

西部・第一・第三に次いで第二地域で既にスタートした自治振興会も、いよいよ中央地域での発進へと期待に胸を弾ませながら、地域活性化への確かさを共有したいばかりに…。

コミュニティの三識

①自治意識を高めることが肝要
自らの地域は住民一人ひとりが治める↑という判断や責任など

②自治知識を広めることが必要
何をどうすることが自治なのかという情報や交流などで、自治意識との間に生まれる自発をベースに

③自治組織を強めることが重要
適材適所の人材と適正な経費を円滑にする↑役割や分担などで、自治知識との間に生まれる自主をベースにした機構や会議などがあげられ、更に自治意識との間に生まれる自立をベースにしたいわば「自発・自主・自

立の一体化」が正に豊かな地域づくりの目的であろう。

地域活動の三性

①自発性に基づくことが肝要
住民が自ら進んですることやできることが基礎

②現実性に富む
ことが必要
気軽に参加できて、世代間のふれあいを味わうことが大切で、自発性との間に生まれる要望をベースにすることが基本

③非基準性に耐えることが重要
地域活動には「もうこれいい」というような基準が無いともしられるので、常に日進月歩の新鮮さが問われ、現実性との間に生まれる追究を目指すことが基準とされ、更に、自発性と



の間に生まれる発展をベースにした事業が計画されることになるのである。

地域住民の三そうい

①相違を生かすことが肝要

一人ひとりの住民の願い、生き方、考え方のちがいを可能に限り、捨てず・つぶさず・あきらめずに生かすこと

②創意を集めることが必要

地域に息づく住民の創意を大事に育て、意欲・発想・方向転換などがゆつたりとできること

③総意に基づくことが重要

これが本当の総意なのかという確さ、確実さ、実績さを図ること

等が俗にいう「三つのそうい」で、これらは或る意味ではあらゆる活動の三原則ともいわれている。

やや小理屈に落ち込む危険をカバーするためには、佐藤卓己準教授（京大大学院）が、「即時的な

民意が世論」であり、遅延的な民意が輿論」だとの政治の時代相を解いておられるのは示唆に富み、松本収専務理事（北海道地域総合研究所）が私の発言として、「三二市町村らしい自治を探れ」という提言で市町村という枠（棚野孝夫白糠町長）の大切かを唱えていることを挙げ、自主・自立の道を選んだ北海道特有の歴史的背景があるといわれ、

①広域分散型の地域社会

②自治力を支えた地域産業

③地域連携の実績

④人々の共同の力で困難を克服してきた（以上要約）ことなどを指摘され、「静かな挑戦」が試みられているというのも大いに参考とすべきである。

思うに、地域活性化は住民自治と行政支援に裏打ちされた「振興の共有」によって推進されるので、正に紋切型とはいえず、「住民の住民による住民のための自治」であり、地産地消のユニークな現実を追う町の風の吹き方は、さて、どうだろうか。

（前）中央分館長

尾池隆男